

令和7年度 基幹病院と灘区・東灘区の病院と在宅との交流会報告

発行:2026年2月6日

灘区医療介護サポートセンター 西面 長友

東灘区医療介護サポートセンター 青山 三宅



隣接する灘区と東灘区は、中央区に集中する基幹病院との入退院や通院、両区への転院も多く、区を超えて病院や事業所間の連携が行われています。患者（利用者）・家族の望む退院後の生活を病院と在宅が同じ視点で支援できるよう、顔の見える関係の構築を目的として、灘区・東灘区医療介護サポートセンターが合同で「基幹病院と灘区・東灘区の病院と在宅との交流会」を開催しています。

今回は『入退院時の歯科との連携』にも視点を当て、多職種間で活発な意見交換ができました。

★研修名 令和7年度 基幹病院と灘区・東灘区の病院と在宅との交流会

「深めよう！入退院支援 part 2 ～みんなで考える理想の退院支援～」

★日 時 令和7年10月9日（木） 18:00～20:30

★場 所 御影公会堂 白鶴ホール

【開催報告】

★参加者 109名(病院:47名、在宅:52名、その他:10名)

★研修目標

- ①退院後の不安や恐れを軽減するために、病院と在宅の連携に必要な情報や工夫を具体的に整理することができる。
- ②多職種での意見交換を通じて、「支援とは何か」を改めて考え、明日からの実践に繋がるヒントを得ることができる。
- ③これまで関わりの少なかった専門職（例：在宅歯科医師含む）との連携の必要性について考えるきっかけになる。

★内容 第1部：『支援とは』～本人の望む暮らしを「共に創る」多職種連携の視点～

関西国際大学 教育学部教育福祉学科 准教授 山本 秀樹 氏

ここがポイント！⇒退院前の患者の不安や恐れを解決すると、安心が生まれ「本当にやりたいこと」が患者から語られる。

問題解決はゴールではなく「共に創る暮らし」への入り口であること。

第2部：名刺交換・グループワーク（退院支援の事例検討）

★結果【事例検討 全体の意見まとめ】をご参照ください。

★アンケートから（研修会で印象に残ったこと）「それぞれの立場から、事例に対して何ができるのか、何が課題となるのか、家族の不安解消のために何をすべきかを考え、忌憚のない意見交換ができた。」「不安など問題を解決しないと、本人の望む暮らしを聞き出すことができないということに気づくことができた。」「歯科医との意見交換の機会（歯科医の介入、病院への歯科往診、など）を持てたこと。」

★まとめ

今回の研修会では患者や利用者、その家族が退院後の生活で感じる不安や恐れに焦点を当て、病院と在宅が不安や課題を同じ視点で捉え、多職種での支援のあり方を考えることで、実務に活かすことができるよう検討しました。入院中から退院後まで、本人やその家族が抱える不安や悩みは変化していくものですが、あえて退院後の不安に焦点を当ててみました。

そして、グループワークでは事例を通して入院から退院までのプロセスを遡ってみることで、以下のようなことが挙がりました。

1. **情報共有の重要性**：入院前から退院後まで、病院と在宅チームが密に情報交換を行い、患者や家族のニーズを理解し、それに基づいた支援を提供する。
2. **多職種の関与**：医師、看護師、介護支援専門員など多職種が協力し、リハビリや生活支援を行い、課題を整理し解決していく。
3. **家族・介護者へのサポート**：特に妻への心理的サポートが重要であり、信頼関係を築きながら支援することが求められる。
4. **早期介入**：入院時から退院後を見据えた支援を行い、義歯の調整や薬の管理などを早期に行うことで、在宅生活の質を向上させる。
5. **退院前カンファレンス**：退院前に多職種が集まり、今後の支援と課題について話し合うことで、患者と家族が安心して退院できる。
6. **課題**：キーパーソンとなる高齢の家族など、介護保険未申請の方への支援や介入のタイミングや方法について。

参加された病院の方からは、「退院前に全て解決しておかないといけないというプレッシャーがあったが、在宅の方がこれだけ考えてくださると心強い」「在宅側と一緒に退院指導できれば患者の退院後の不安が少なくなるのではないか」「退院時に本人や家族の課題が残っても、退院後に在宅側と共に調整してもよい」というご意見もありました。

ご本人や家族、関係機関が協働して「望む暮らし」という価値を創造していくことが大切であること、異なる立場の専門職が集まり、互いの視点を理解し合うことなどを会場全体で共有することができました。



【 事例検討 全体の意見まとめ 】

<介護保険新規申請のケース>

